

## 議 事 録

会 議 名	平成24年度 第1回寒川町生涯学習推進会議		
日 時	平成24年8月22日（水）午後1時30分～3時30分	開催形態	公 開
場 所	寒川町民センター 講義室		
出 席 者	委 員：三澤委員（会長）、菊川委員（副会長）、菊地原委員、小倉委員、大江委員、 恵羅委員、岸本委員 （欠席者：宮崎委員、柳下委員、鳥山委員、小林委員） 事務局：三澤教育長、鈴木教育次長、田中生涯学習課長、 中野生涯学習課主査、山口生涯学習課主任主事 傍聴者：なし		
議 題	下記議事欄のとおり		
議 事	<p>1. 開会 田中生涯学習課長</p> <p>2. 委嘱状交付 選出団体等からの委員変更届に伴う委嘱 小倉委員（寒川町小学校長会・一之宮小学校教頭） 大江委員（神奈川県立寒川高等学校・総括教諭） 菊川委員（公益社団法人寒川シルバー人材センター・常務理事） 本日欠席となるが以下の委員も委嘱予定 宮崎委員（寒川中学校長会・寒川東中学校教頭） 鳥山委員（公民館生涯学習推進会議・南部公民館生涯学習推進員）</p> <p>3. あいさつ 三澤会長 三澤教育長 各委員自己紹介及び職員紹介</p> <p>4. 副会長の選出 委員の互選により、菊川委員を副会長に選出。</p> <p>5. 報告事項 （1）寒川 学びプラン 平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画について ・事務局から資料2について説明 23年度第1回会議の意見を受け、23年度事業報告に事業の課題、問題点、アンケートの有無等の欄を設けた。23年度第2回会議の資料（3月15日時点）と大きな変更は無いが、数カ所修正、追加等してある。</p> <p>（会 長） 今日の協議事項で「若い世代の生涯学習事業への参加促進について」とあるが、今の説明の取り組み方針3に「成人期」とあり、「若い世代」とはどの年代層を指しているのか。</p> <p>（事務局） 今回の若い世代とは青少年期、成人期あたりの、高齢期以前の世代を想定している。</p> <p>（2）平成23年度さむかわ町民大学等の実績について ・事務局から資料3について説明</p>		

(副会長) 出前講座に「ひこばえの会」という団体がよく利用されているが、どう  
いう団体なのか。また、前年度より受講者数が100人近く増えているが、  
何か理由はあるのか。

(事務局) 「ひこばえの会」は定期的にこのような学習会を行っている学習グルー  
プである。また、前年度からの受講者数の増加理由としては各回の受講者  
数が多めであり、地域防災の講座などは38人の参加があったが、人員が増  
加した特徴的な部分とはとくに見受けられない。健康、介護などは毎年派遣  
要請をいただいている。また、出前講座をPRするために、9月1日号の広報  
にもPR記事を掲載予定である。

## 6. 協議事項

### (1) 若い世代の生涯学習事業への参加促進について

・事務局から説明。

ライフステージに沿った生涯学習活動を推進するため、様々な事業展開を  
しているが、若い世代の参加が少ない状況であり、地域で学習に取り組める  
支援体制、参加を支える環境づくりが必要とされている。就職世代の若者に  
も、早期離職傾向、ニート等が増加している実態があり、社会とどう関わっ  
て生きていくかという、生涯学習の本来の問題もあると考えられる。団体  
活動も高齢化しており、学習成果が地域へ還元する学びのサイクルが若い世  
代からつながるよう、地域の生涯学習事業、活動の支援はどのようなことが  
考えられるか。

(会 長) 最近の若い方の生涯学習に関する考え方というのはいかがでしょう  
か。30年前は高度経済成長期で、若い方が様々な活動にも目が向いた時代では  
ありました。今は経済的にも落ち込んでおり、貧しくとも心は豊かという  
こともあります。各委員の皆様からご意見をお願いします。

(委 員) 大学生と接していると、社会に向けて何かをするという教育がなされてい  
ないと感じている。極論すると個人主義。学生達に将来のことを語っても  
らうと、自分はどうやって良い人生が送れるか、自分がどうやったら輝け  
るか、という言葉がよく出てくる。本人がどういう人生を送るかというこ  
とも大事であるが、自分自身が生きるために、やはり他との関係、社会と  
の関係の中でどうやって生きていくかという側面をどこかで強調して教え  
ないといけないのではないか。私が一番感じるのは、自分がどうやったら  
自分らしくなるか、自分の人生をどうやって見つけるか、常に主語は自分  
である。社会にとってどう貢献するか等という言葉は出てこない。いろい  
ろな子どもがいるので全員とは言わないが、傾向としてはそうなっている。  
戦後世代は似たようなものだと思うが、上の世代と今で大きな違いがある  
とすれば、私たちの世代はまだ社会的な中で生きる、みんなで生きていく  
というような習慣を身につける育ち方をした。若い世代はまず自分。今は  
就職難でもあるので、若い人は大変悩んでいるが、どのような仕事をした  
いのかと聞くと、自分がその仕事でどうやって世の中に貢献できるのかと  
いう意識はほとんどない。自分がどうやったら満足できるか、ということ  
ばかりである。しかし、積極的な面もあるので、そこを踏まえて、個性を  
大事にしながら良い方向にいくといいのだが。

(会 長) 生涯教育は社会教育の一部であるが、社会教育で社会性が身についてい  
ない子ども達をどう伸ばしたらいいのか考えた方がいいのかもしれない。  
家庭ではなかなか無理がある。しかし公民館講座では若い世代は来ないか  
もしれない。

(委 員) 大学でもボランティア活動は自主的だったり、先生の指導のもの等、さか  
んに行われていて、社会との関わりを学んでいることもあるのだが、ボラ  
ンティアを散々やってきて、最後に総括した時に自分が今回の活動で輝け

ました、と結局自分のことになってしまう。みんなのためにできて良かったという話で終わらない。そのあたりの原因は深いものがあるのかもしれない。

(会 長) 私は子育て支援グループのNPOを行っているが、寒川高校の生徒が夏休みに保育体験を兼ねたボランティアに来てくれている。その子達は数年前の高校生に比べて、しっかりしていると感じている。積極的に子ども達と関わってくれて、自分が何になりたいかという考えをしっかり持っている。私自身が子育てしている頃は、自分の子もまわりの子も大学へ行っても何になりたいかということが漠然としていたような子が多かった気がする。そういう意味では最近の子はしっかりしていると思った。

(委 員) 子育て支援センターの主な利用者である母親と話をしていてよく出てくるのが、夫への不満であれをしてくれない、これをしてくれない、また、うちの子どもはあれができない、という話題になる。なぜ自分がこう感じるのか、夫がなぜその場面でこういう態度となるのか、目の前の子どもがなぜこういう反応をするのか、という考え方をしないで、すぐ自分が嫌だと拒否してしまう傾向がある。このような話を受け止める場所があれば、私自身が嫌だったんだなという気づきがあるのだが、そこに至らずただ漠然とあれもダメ、これもダメという気持ちで子育てをしている方が最近の傾向としてある。父親でも最近、支援センターの利用があるが、父親ならではの子どもへの接し方よりも、母親と同じような接し方をする父親が見受けられる。よく利用してくれる父親へ聞いてみても、自分なりの子ども時代を過ごしてきた経験はあっても、同じことを自分の子どもと一緒に楽しむという考えまでいかずに、今は妻から与えられたこの時間をどう過ごすかということだけで、自分なりの応用ができないように感じている。

(会 長) 公民館で昨年度は家庭教育学級というものを行ったのだが、ほんとに数名しか来なくて、今の母親は学ぼうという意識が低いのだろうか。すごく良いテーマだったのに残念に思った。

(委 員) 子育てしている母親と接していて、何か困り感を感じる人がいる。本人にはそれが困っている状態であるとは気がついていない、とくに小さい子どもを育てている毎日だと、じっくり自分や周りのことを考えることもできずに漠然と過ぎてしまうのかもしれない。今、自分がどういうところにおいて、家族も自分たちの小さな社会であります、その中をどのような形で動いていくのがいいのかを振り返ることも難しい、でもそういう話ができる機会があれば、すごくいいだろうと思う。

(委 員) 小学校では青年期、成人期というと保護者や大学生のボランティアなどと接する機会がある。教員でも若い新採用の世代では組織的な動きをするという意識がなかなか育ちにくい。昔に比べて教育課程の中身も多くなり、小学校では新任ですぐ担任になって、初任研修をこなし、なかなかゆとりもないのだが、学校としてもその人がまずクラス担任として1人前になれるように、学校の中の仕事も経験するようにしているが、「気の利く」人が少なくなった。学校に貢献をする、それがひいては教育を作っているのだという考えには立てていない。30歳くらいでようやく青年期になっている感じである。

保護者はどうしても我が子だけに目がいきがちであるが、しかしPTA活動などで一所懸命やってくださる方もいて、今朝も3日間連続で学校の花壇の水まきに来て下さる等、保護者の中でも両極端であるとは感じている。

(委 員) まず感じたのは、町ではこれだけたくさんの講座があって、学ぼうと思えばこれだけたくさんのチャンスがあるということに驚いた。しかし、高校生にはこのような生涯学習との結びつきは難しいと感じている。高校3年

間は短く、学習といえばまず勉強ということで、卒業してからの進路をどうするか、キャリア教育が推進されているが、まず自分がどのような立場になって、その後時間や気持ちに余裕が持てれば、次の学習に目がいくのかもしれない。ボランティア活動をして、まず一番の動機付けは進路ということになるが、キャリア教育の中で様々なインターンシップ体験をして、自分の適正を見ながら、仕事とは別に将来につながることを見つけられたら良いと思う。

(委員) 青年会議所はまちづくり、ひとづくりをするための団体と位置づけて活動している。現在は会員が減少傾向にあり、バブル期の半分以下、新しいメンバーが増えない。これは寒川に限らず、他の地域でも同様なのだが、なんとかしなければいけないという状況で動いている。しかし、町の若者は元気がないのかというと、そういうことではなくて、町をなんとかしようという若者が減ってきてしまったと感じている。今回、寒川で花火大会を復活させようと実行委員会を立ち上げた。これは青年会議所として単体で行うのではなく、商工会青年部とJAさがみ寒川支店で勤務している方、農家の方々と協力して作った。これは花火を上げることだけが目的ではなく、若者が集まって何かできるのだということを知らせたい、自分達の町は自分達で作れるのだということを中心に発信して新たなきっかけになればいいと思っている。今まで交流していなかった農業、工業、商業の方などが相互に繋がり、新たな仲間作りができて、今度こういうことがやりたいという話ができるようになってきた。

もしかすると町が考えている生涯学習のコンテンツが我々にとってやりたいことではないのかなと思う。もっと違った形で若者のやる気とか、興味を引きつける何かができるのではないかな。昨年度は青年会議所でも出前講座を利用して学習会をして、話を聞けばとても良いこととは思っているので、また興味のあるコンテンツがあれば受講したい。しかし、30～40代は子育てなど時間を作ることが難しい世代でもあり、我々も苦勞している。町として若い世代に向けて何かしてくれると、まちづくり団体としては嬉しく思っているし、引き続き新たなまちづくりにつなげていければと思う。

(会長) 町としてこれだけたくさんのメニューを出しながらも、なかなか参加がないと待つよりも、若い人のやる気をおこさせるような、若い人たちが何か企画して、企画を町で採用するようなことも考えてはどうか。

(副会長) 若い世代の生涯学習事業への参加ということだが、20～60歳までは仕事などで忙しい、これはやむを得ない、永遠のテーマなのかもしれないと考えている。ただ成人期のメニューというのはこれだけたくさんあって、参加をしようとする人たちの時間や曜日にも配慮しながらメニューを作って、少しでも参加をしていただくことが必要であると思う。定年を過ぎて余裕もできたら、生涯学習、スポーツ、レジャーなどあれもこれもやってみたいという欲求は誰でもあると思う。若い頃から参加するということは時間的な問題などネックになる部分が多いが、少しでも、1人でも2人でもいいから意欲的な人が育って、そこから輪が広がる体制作りが必要なのではないか。

(委員) 講座を受けて何かを学ぶというよりも、参加型で自分たちで作り出すような企画の方が若い人は集まりやすいのではないかな。ボランティア的なことなどそのような中から学んでくれたらいいと思う。和歌の講座やります、などいっても若い人は来てくれない。20～30代の方は元気で力もあるので、そのような方の力を借りるような企画をやれば出てきてくれるのではないかな。

(会長) そのようなことからひとづくりができて、やがてまちづくりに繋がっていくのではないかな。若い人は柔軟でちょっとヒントがあれば企画力はもの

すごくあるので、そこを町で汲み取って、転換する必要があると思う。

(生涯学習課長) さまざまな立場からの貴重なご意見ありがとうございます。今後の事業に役立てていきたい。

ところで、若い世代の企画ということで、成人式の企画を新成人になる人たちを集めて実行委員会を作っている。これまでも実行委員会はあったのだが、昨年から実際の企画自体から新成人に考えてもらっている。今年は20人ほど集まってもらったが、内心役員決めは大変なのではないかと思っていたところ、どんどん手があがってすぐ決まってしまった。これだけ若者が積極的なら町がよくなって、まちづくりを楽しむということができるとは思わないかと感じた。自分が参加して、何か作れるという楽しさを知ってもらえたら、今後の人生が楽しくなるのではないか。先ほどの意見の中でも、最近では社会貢献という意識が少なくなった。

また、昨年从小谷小学校の近所で小学生体験学習としてさつまいも作りを実施しており、今年はさつまいもサポーターとして大人の方に関わってもらっている。農業経験のある方などに、子ども達に指導してもらうなど異世代と一緒に関わって、何かを創り上げてもらうという機会が必要だと思っている。

(会 長) やはり参加した方が育つことができる講座が必要だと思う。

(委 員) 寒川学びプランにある将来目標「ともに学び・ともに支えあう 自己実現と協働のまち・さむかわ」がまさに青年会議所が行っていることであって、明るい豊かなまちづくりのために動いている。自分たちが意識改革をして、町を、日本を世界を良くしようと思っているのだが、なかなか自分たちだけでは無理なので、いろいろな方と交流して、成人期のみならずいろいろな世代の方とふれあうことで我々自身も成長できると思っている。様々なライフステージの方と交流して切磋琢磨できる場があると良い。

(会 長) 青年会議所から非常に頼もしいご意見ありがとうございます。

#### 7. その他

- ・事務局から行事予定紹介（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町資料展、還暦のつどい）

#### 9. 閉会

菊川副会長

#### 資 料

1. 平成24年度寒川町生涯学習推進会議委員名簿
2. 寒川 学びプラン 平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画
3. 平成23年度さむかわ町民大学事業実績（詳細）等  
（参考資料）
  - ・平成24年度さむかわ生涯学習総合案内パンフレット
  - ・平成24年度さむかわ町民大学パンフレット
  - ・平成24年度さむかわ出前講座パンフレット
  - ・子どものための情報紙「すきっぷ」平成24年夏号
  - ・藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町資料展「湘南に残る匠の技 宮大工の世界」チラシ
  - ・還暦のつどいチラシ

議事録承認委員及び  
議事録確定年月日

・三澤米子

・菊川雅男

(平成24年9月13日確定)